

平成31年度 小平第二みどり作業所 事業計画書

1 はじめに

平成30年度は、利用者一人ひとりの作業支援計画に沿った支援の実施、就労支援事業収益の拡大と工賃向上、職員のスキルアップに取り組んだ。日常の様子観察やそれに基づく支援方針等の職員間のコミュニケーションについては向上がみられ、利用者の作業意識や技術の向上は少しずつ見られてきているが、作業支援計画の作成、就労事業の売上目標に対する達成数値の管理など不十分な点もあった。これらの反省点を踏まえて、平成31年度は基本的に30年度の重点課題を継続して、取り組んでいきたいと考えている。また、31年度は、30年度に顕在化した利用者の気持ちの安定のための相談支援と就労支援の両立に向けた検討を進める年でもある。これまではその都度対応をしてきたが、計画的な支援体制の構築を考えていきたい。

平成29年度の報酬単価改定に伴う給付費の減額から、安定的な事業運営を行うためには、利用者数を増やしていく必要がある。平成31年度は、近隣の特別支援学校卒業生を新たに2名受け入れ、44名でスタートとなるが、最大50名まで受け入れが可能である。職員態勢の整備を行い、安定した事業運営を図っていきたい。

2 事業概要

- 1) 施設名 小平第二みどり作業所
- 2) 事業種別 就労継続支援B型
- 3) 所在地 東京都小平市天神町3-7-16
- 4) 運営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 40名
- 6) 利用現員 44名(平成31年4月1日現在)
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成20年4月1日
- 9) 職員 12名(平成31年4月1日現在)

管理者	1名	常勤1
サービス管理責任者	1名	常勤1
職業指導員	3名	(常勤換算3.0)
生活支援員	6名	(常勤換算5.7)
目標工賃達成指導員	1名	常勤1

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- 1) 就労支援
 - ① 利用者の個々の特性にあった就労支援事業の活性化
 - ② 生き生きと働ける職場
 - ③ 職業指導の充実
 - ④ 賃金の保障
 - ⑤ 就労移行支援の実施
- 2) 生活支援
 - ① 日中活動の支援
 - ② 豊かな生活の支援
 - ③ 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援

- ④ 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- ⑤ 利用者への相談支援
- ⑥ 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

1) 就労支援事業

- ① クッキー製造・販売
- ② パン製造・販売
- ③ 公園清掃
- ④ マンション清掃
- ⑤ 緑化推進事業
- ⑥ 受注作業（切手仕分け作業等）

2) 生活支援事業

- ① レクリエーション（月1回実施）
- ② 音楽教室（月2回実施）
- ③ 旅行（年1回実施）
- ④ 生活支援プログラム（週3日実施）
- ⑤ 夕方生活支援事業（週3日実施）

3) 行事

- 4月 永年勤続表彰式・新社会人を祝う会
- 5月 障がい者運動会
- 6月 ボーリング大会
- 7月 レクリエーション
- 8月 川遊び、みんなの音楽会
- 9月 レクリエーション
- 10月 一泊旅行
- 11月 レクリエーション
- 12月 忘年会
- 1月 成人を祝う会
- 2月 カラオケ大会
- 3月 花見

6 日 課

開所・送迎・清掃	8:30～	9:00
朝 礼	9:15～	9:30
作 業	9:30～	10:30
休 憩	10:30～	10:45
作 業	10:45～	11:45
片付け	11:45～	12:00
昼休み	12:00～	13:00
昼 礼	13:00～	13:15
作 業	13:15～	14:15
休 憩	14:15～	14:30
作 業	14:30～	15:30
終 礼	15:30～	15:50
送 迎	15:50～	16:30
清掃・記録等	16:30～	17:00
職員打ち合わせ	17:00～	17:30

7 重点課題・目標

1) 活動

(1) 利用者の就労支援の充実。

- ①個別支援計画における作業支援計画を丁寧に作成し、評価、見直しを実施する
- ②作業技術の向上と作業の可能性の伸長
- ③作業に対する意識の向上と職業人としての成長を支援する

(2) 就労支援事業の収益拡大

①クッキー事業

目標売上 31年度7,000,000円

(前年度実績 6,900,000円より10万円増額)

ア、担当職員の技術向上

イ、夏場の売り上げ減少期への検討

- ・ゼリー等のクッキー以外の商品開発
- ・急速冷凍機の導入について検討する(夏場に作り置きを行う)

ウ、売上目標に対する達成数値の管理を徹底し、計画的な製造や販売を行う。

②パン事業

目標売上 31年度2,900,000円

(前年度実績 2,800,000円より10万円増額)

ア、担当職員の技術向上

イ、販路拡大

新規販売先開拓のほか、昨年度より開始している市内都立高校のパン販売を安定して実施する。

ウ、売上目標に対する達成数値の管理を徹底し、計画的な製造や販売を行う。

(3) 工賃の向上

上記(2)の通り、就労支援事業収入の増収目標を年間20万円、この内収益を60%の12万円とした場合、1日平均利用者37名、年間利用者数444名で試算すると、月額平均工賃の増額は270円となる。

月額平均工賃 30年度実績 15,000円(見込み)

31年度目標 15,300円

(4) 相談支援の充実

気持ちが不安定となり生活や対人関係に不安を抱えている利用者の相談支援を充実させ、安定的に就業が行えるよう支援する。

- ① 個別支援計画に気持ちの安定の為の相談支援内容を具体的に盛り込み、計画的に支援を行う。(定期相談の実施など、頻度や時間等を具体的に設定する)
- ② 家族、関係機関(就労生活支援センター、地域自立生活支援センター等)、医療機関と連携し、情報共有や支援方針の統一また協力体制の構築を図る。
- ③ 相談内容やそれに対する支援内容や評価などを、連続性を持って記録し、支援に有効活用する。(相談支援記録の作成)

2) 人材育成

(1) 職業指導員、生活支援員

- ① 作業支援計画を基に支援方針の統一を図ると共に、一人ひとりに丁寧な支援を実施する。
- ② 支援経過の記録を丁寧行うと共に、ミーティング等で報告し合い、支援計画の実施状況や達成度について情報の共有を図る。
- ③ 共有した情報を基に、職員間で意見交換を行い、支援の充実を図ると共に、必要に応じた計画の見直しを行う。

3) 経営管理

(1) 訓練等給付費の安定確保

利用者受入れの中長期計画（近隣の特別支援学校卒業生、自治体、支援センターからの紹介者など）を以下の通り設定する。

平成31年度（2名受入）

1日平均利用者37人（44人在籍）（30年度1日平均利用者数35人）
職員態勢13名（常勤換算11.5名 管理者含む）

平成32年度（2名受入）

1日平均利用者39人（46人在籍）
職員態勢13名（常勤換算11.5名 管理者含む）

平成33年度（2名受入）

1日平均利用者41人（48人在籍）
職員態勢14名（常勤職員1名増員）（常勤換算12.5名 管理者含む）

平成34年度（2名受入）

1日平均利用者43人（50名在籍）
職員態勢14名（常勤換算12.5名 管理者含む）

(2) 月次試算による経営状態の把握

毎月の月次試算の分析を丁寧に行い、予算執行を計画的に行う。

8 環境の整備

施設内外の美化と利用者身辺の整理整頓につとめ、危険の防止に努める。

9 健康管理

定期的に健康診断・身体測定を行い、健康状態の把握に努めるとともに、利用者の家族・保健師等との連携を密にし、健康管理・疾病の予防に努める。

10 防災計画

管理者の指揮のもとに、非常災害訓練を年2回実施する。

総指揮 管理者

連絡担当 職業指導員および生活支援員

救助担当 職業指導員および生活支援員

11 資金計画

通常の運営経費は、運営費でまかなう。